

第 2 0 回
近畿地区中学校修学旅行研究大会
研 究 要 録

平成17年11月18日（金）
午後1時 ～ 4時
和歌山市「和歌山ビッグ愛」

主 催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会

後 援 和歌山県教育委員会 大阪府教育委員会
京都府教育委員会 滋賀県教育委員会
奈良県教育委員会 兵庫県教育委員会
和歌山市教育委員会

協 賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会

目

次

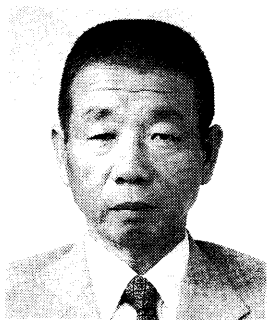
1	大会要項	-----	1
2	挨拶		
	近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 （和歌山県野上町立野上中学校長）	橋戸 常年 -----	2
	財団法人 全国修学旅行研究協会理事長	中西 朗 -----	3
3	研究発表		
	① 「関東への修学旅行」 —総合的な学習（進路・環境・歴史）を深める— 奈良県桜井市立桜井東中学校 教諭 岸田 哲弥	-----	4
	② 「北海道への修学旅行」 —地域の特産物・南高梅のPR活動の取り組み— 和歌山県みなべ町立上南部中学校 教諭 野田 明	-----	2 4
4	研究協議	-----	4 2
5	講 評 和歌山県教育庁学校教育局小中学校課 指導主事 熊代 秀至	-----	4 3
6	近畿地区中学校修学旅行研究大会のあゆみ（参考資料）	-----	4 4

大会要項

- 1 主 催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会
- 2 後 援 ・和歌山県教育委員会 ・大阪府教育委員会 ・京都府教育委員会
・滋賀県教育委員会 ・奈良県教育委員会 ・兵庫県教育委員会
・和歌山市教育委員会
- 3 協 賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
- 4 研究テーマ 「修学旅行における学びの創造」
- 5 日 時 平成17年11月18日(金)
受付 午後12時30分 開会 午後1時 閉会 午後4時
- 6 会 場 和歌山県和歌山市 「和歌山ビッグ愛」 1F 大ホール
(JR阪和線 和歌山駅下車 バス約5分)
和歌山市手平2丁目1-2 Tel 073-435-5200

7 日 程

13:00	会長 開会挨拶 理事長開会挨拶 来賓祝辞	(1) 開会挨拶 ・近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 橋本 常年 (和歌山県野上町立野上中学校長) ・財団法人 全国修学旅行研究協会理事長 中西 朗
13:10	研 究 発 表	(2) 来賓祝辞 和歌山県教育庁学校教育局小中学校課 課長 西原 孝幸
	① 奈良県 桜井東中学校	(3) 研究発表 ① 奈良県桜井市立桜井東中学校 教諭 岸田 哲弥 「関東への修学旅行」 — 総合的な学習(進路・環境・歴史)を深める —
	② 和歌山県 上南部中学校	② 和歌山県みなべ町立上南部中学校 教諭 野田 明 「北海道への修学旅行」 — 地域の特産物・南高梅のPR活動の取り組み —
14:30	休 憩	
14:40	研 究 協 議	(4) 研究協議 司会者 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 副会長 (大阪府太子町立中学校) 校長 勝良 憲治
15:30	講 評	
15:50	感謝状 贈呈 副会長閉会挨拶	(5) 講 評 和歌山県教育庁学校教育局小中学校課 指導主事 熊代 秀至
16:00		(6) 閉会挨拶 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 副会長 (京都府亀岡市立南桑中学校) 校長 森永 正幸



修学旅行研究大会の開催にあたって

近畿地区公立中学校修学旅行委員会
会 長 橋 戸 常 年
(和歌山県野上町立野上中学校長)

第20回近畿地区中学校修学旅行研究大会を和歌山市において開催する事になりました。昨年度までの3年間のテーマは、「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」でしたが、今年度は「修学旅行における『学び』の創造」が大会主題です。これまでの研究成果をふまえ、さらに修学旅行に寄せる思いを焦点化させ、修学旅行に多くの学習効果を期待する熱意がこのテーマには込められています。

修学旅行の中に『学び』を創り出そうという営みは、いつの時代にも試みられてきたことであり、同時に私たちが宿命的に背負わされてきた課題でもあります。本日研究発表していただきます奈良県桜井東中学校ならびに和歌山県上南部中学校は、ともに総合的な学習としてそれぞれの学習のねらいをもって修学旅行を位置づけ、学習の成果を達成しようと実践されたご発表であり、多くの示唆を与えていただけるものと期待するところです。

昨今の子供達の言動に振りまわされがちな私たち大人ですが、それらの事件が起きるたびに、自然体験をはじめとするさまざまな体験不足や、他者に対する関わり方の未熟さ等が指摘されてきました。私たちは、修学旅行というごく限られた時間内に、これらすべてを補いきれないにしても、多くの成果を期待して、修学旅行に取り組んでいることは確かな事実です。そして修学旅行前とそれ以後とでは学級の雰囲気が大きく変化し、生徒一人ひとりが急にたくましく成長したように感じられことがあります。さらに教師と生徒個人との距離が急に縮まったように感じられ、その後の生徒指導等に大いに役立ったという経験は誰もが持っています。

修学旅行は子ども達にとって中学校生活で最大のイベントであり、生涯の思い出になる学校行事のひとつです。見知らぬところでの未知なる体験には、不安とともに求めたい何かを得られるであろうという、大いなる期待があります。事前学習は勿論、旅行中の体験すべてが学習であり、将来への糧になるものばかりであると考えます。私たちはこのような生徒の思いに添いながら修学旅行を実践していかなければなりません。

本日の研究発表校の実践を含め、ご参会の皆様方相互の情報交換が、今後の修学旅行のあり方を追求する先陣となれることをご祈念申し上げ挨拶いたします。



修学旅行研究大会の開催にあたって

財団法人 全国修学旅行研究協会
理事長 中 西 朗

各方面のご支援を受け、ここに、第20回近畿地区中学校修学旅行研究大会が開催されますことは、誠に意義深いものがあります。この開催にあたり、近畿地区公立中学校修学旅行委員会のご尽力はもとより、近畿各府県教育委員会、和歌山市教育委員会のお力添えに心から御礼申し上げます。

私たちにとって「旅」とはどのような意味合いがあるのでしょうか。

人間として生まれて、家庭という世界での生活が始まります。小学校に行くようになると、新たな学校という世界が出現し、そこに一つの人生の転換期が訪れるのです。中学校入学も大きな転換期といえましょう。このように、人間の一生を通して、自分を取り巻く世界が拡大していきます。まさに、それが「旅」なのでしょう。ですから、これから広がる世界への期待や憧れが生まれるのです。

しかし同時に、多くの混乱や危険が伴い、その困難を自分なりに乗り越えることによって人間的な成長が図られます。『かわいい子には旅をさせよ』というのは、「異なった生活を通して世間の実情を認識させる」という人間的成長を期待した言葉でしょう。修学旅行も、この一環です。見聞、体験、交友など、新しい発見を通して、学校生活の大きな思い出となるのでしょう。

先生方には、このような子ども一人一人の世界の広がりを見守っていくことが責務となります。その時起きるであろうリスクを最小限に食い止めて、健全な成長が図られるよう支援しなければなりません。同様に、修学旅行においても学習の充実や生活の安全を確保しなければなりません。

特に、最近、旅行中の食物アレルギーへの対応が求められています。その種類も年々増加し、様々なものがあります。卵、牛乳、小麦、そば、落花生等々、食物そのものはもちろんですが、加工品のチェックも必要です。その対応には、子ども一人一人の細かな情報もしっかりと把握しておかなければなりませんし、緊急時の対応マニュアルの作成が欠かせません。

今回の研究発表は、新しい視点からの修学旅行の実践です。総合的な学びとして「人間としての生き方」を求める修学旅行、そして、我が故郷のすばらしさを携えての修学旅行です。この実践は、私どもに多くの示唆を与えてくれることでしょう。ご努力に敬意と感謝を申し上げます。

研 究 発 表 ①

「関東への修学旅行」

— 総合的な学習（進路・環境・歴史）を深める —

奈良県桜井市立桜井東中学校

教諭 岸田 哲弥

1	はじめに	-----	4
2	修学旅行 目的地の変更	-----	7
3	関東方面への修学旅行	-----	1 1
4	成果と課題	-----	2 3

関東への修学旅行

～総合的な学習（進路・環境・歴史）を深める～

桜井市立桜井東中学校

教諭 岸田 哲 弥

1 はじめに

（１）本校および地域の概要

桜井市は奈良盆地の南東部に位置し、市域の北から西にかけては奈良盆地、南から東にかけては山間部（吉野山地の北縁、大和高原の南西縁）にまたがっている。本市は、2005年現在で人口約6万3千人であり、そうめんや製材業で知られる一地方都市である。

桜井市はそのむかし大和王権がおかれた地にあたり、三輪山のふもとに大神神社、卑弥呼の墓に比定される箸墓古墳、仏教伝来の朝鮮使節が上陸したとされる初瀬川など、古くからの歴史を伝える歴史的遺産が豊富な場所である。

現在、市内の中学校は本校を含め4校あるが、本校の校区は桜井市の東部に位置し、大部分が山間部に属し、万葉の昔、歌によく詠まれた初瀬川が山間部から奈良盆地に流れ込むまでの範囲である。すなわち、奈良盆地の南東の端から東へのびる初瀬谷と、その北と南の急峻な山地をふくむ範囲であり、初瀬谷が深い溪谷を刻みだすあたりには奈良時代に建立された長谷寺があり、今も多くの参詣者が訪れる。



本校生徒は、概して素直・温厚で、授業にはまじめに取り組み、おおむね落ち着いた学校生活を送っており、近年、問題行動は少ない。校区が比較的広いことから、バスや電車で通学している生徒が6割強におよぶ。40年前の開校以来、1学年3学級であったが、近鉄沿線に住宅地ができたことから1学年4～5学級の規模に拡大した。しかし、少子化傾向により、数年前から1学年3学級、本年度の1年生は2学級となり、数年後には全学年2学級の小規模な学校になる見込みである。

〔表 1〕生徒数の変遷

年度	9 6	9 7	9 8	9 9	0 0	0 1	0 2	0 3	0 4	0 5
男子	2 0 4	1 9 6	1 7 9	1 3 7	1 2 9	1 2 7	1 2 1	1 1 9	1 2 4	1 2 6
女子	1 9 2	1 8 6	1 7 2	1 6 0	1 7 6	1 7 4	1 5 3	1 2 9	1 0 9	1 0 8
計	3 9 6	3 8 2	3 5 1	2 9 7	3 0 5	3 0 1	2 7 4	2 4 8	2 3 3	2 3 4
学級数	1 3	1 2	1 1	9	9	9	8	8	8	8

(注) 学級数には、障害児学級をふくまない。

〔表 2〕平成 1 7 年度生徒数

	1 年	2 年	3 年	合 計
男 子	3 0	4 9	4 7	1 2 6
女 子	3 3	3 7	3 8	1 0 8
計	6 3	8 6	8 5	2 3 4
学級数	2	3	3	8 (2)

(注) 学級数の () は、別に障害児学級。

(2) 学校経営方針

【本校教育の目標】

日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、県・市の教育方針を根幹として、時代の進展をみつめ、人権尊重の精神に徹し、21世紀をたくましく生きぬき、民主社会の発展と文化の創造に努める人間の育成を目指す教育を推進する。このため、校区の地域性並びに本校生徒の特性・実態をふまえ、次の具体的目標をかかげる。

【具体的目標】

- ① 自主・自立の精神に富み、創造性豊かで、確かな学力を備えた人間を育成する。
- ② 健康で忍耐力のある人間を育てる。
- ③ 人権を尊重し民主的な社会の建設に役立つ人間を育成する。

《目指す子ども像》 ← 生徒にも目標として示している。

- 人の痛みが分かる人間
- となりの子を大切にできる人間
- 基本的なことがきちんとできる人間
- 自分をみつめることができる人間
- 「共に生きている。共に生きていくためにどうするか。」を考えられる人間。

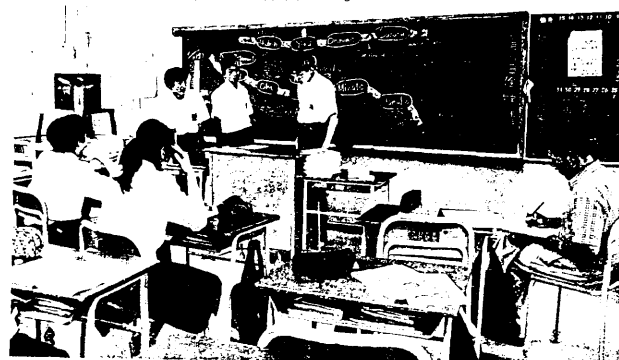
【具体的目標に即した本年度の研究課題】

- ①について ○個に応じたきめ細かな授業により、自己学習力（思考力・判断力・表現力）を養い、基礎学力を充実させる。
- ②について ○自発的・自主的な体育的活動をすすめ、健康でたくましい心身を育てる。
- ③について ○体験的学習を通して思いやりの心を醸成し、差別を見抜き、たす力を育成する。
○学校生活上の課題を全員で共有し、解決する姿勢を培う。

【本校の特徴的な取り組み】

人権に関する「節の日」

- 節の日とは → ○以前、狭山集団登校として行っていた。
○10数年前から生徒会主催の「節の日」。
○自らの生活の中に差別につながるものの見方や考え方をしていないかを見つめるきっかけの日。
○竹は節があることによって大きくしなやかに生長するように、自らの成長のため、学校生活の節々に、生活や行動を点検し、改善するための自主的な取り組み。
- 本年度の取組 → ○劇「これな・・・、おばあちゃんの匂いやもん。」
・部落問題学習のなかでの生徒のつぶやきと、ある教師の被差別体験を織り交ぜたストーリー。
・生徒の自主的参加による配役と諸係り。



2 修学旅行 目的地の変更

(1) スキーから関東へ

- ・20年以上、長野県へスキー体験学習の修学旅行が続いていた。
- ・市内他校では関東方面が主流。(年によっては九州方面)
- ・昨年度から関東方面に変更。

(2) スキー修学旅行

① 目的

- ・日ごろ、体験できないような大自然の中でのスキー実習を通して、スキー技術とそのマナーの習得、体力の向上、的確な判断力の育成を図る。
- ・集団生活を通して、規律・自主性の大切さ、健康管理について学び、仲間として協力し合う態度を養う。

② 行き先 長野県北部のスキー場

③ 時期 年によって多少ちがうが、1月下旬から2月上旬の間で実施。

④ おもな日程

- ・1日目 早朝にバスで出発、3時頃到着。
装具を合わせ、雪上歩行練習。夜、学年集会など。
- ・2日目 終日、スキー実習(9～11:30、13～16時)。
夜、学年集会など。
- ・3日目 終日、スキー実習(9～11:30、13～16時)。
夜、バスで帰路につく。
- ・4日目 早朝、学校に到着。

④ スキー体験のようす <感想文>

○ ぼくはスキーをするのは初めてでした。だから、たった三日間でスキーができるようになるのか心配でした。でも、指導員の方が親切に教えてくれて、だんだん滑れるようになり、スキーの楽しさが分かるようになりました。ホテルでも友達と楽しくゆっくり過ごせて、もっといたいと思いました。

○ 修学旅行に行く前に体調を崩して風邪を引いてしまいました。向こうでスキーができるのか心配でしたが、中学生生活で1回きりの修学旅行なので絶対行きたいと思っていました。二日目の午前中までホテルで寝ていましたが、その間、何人もの友達が私のようすを見に来てくれて、嬉しく思いました。午後からスキーに参加してから気遣ってくれ、気分もだんだんよくなり、楽しくスキーができました。風邪を引いてしまった修学旅行でしたが、そうだったからこそ友達の大切さも感じた旅行でした。

⑤ 参加者数について

- ・風邪やインフルエンザ流行の影響による不参加者や宿舎待機する生徒。

〔資料３〕 ２００２（Ｈ１４）年度までの参加者

年度(平成)	９７（９）	９８（１０）	９９（１１）	００（１２）	０１（１３）	０２（１４）
目的地	長野	〃	〃	〃	〃	〃
生徒数	１４３	１０３	１０５	８９	１１１	１０１
欠席者	１	２	３	０	（２）	１１
参加者	１４２	１０１	１０２	８９	１１１	９０
内見学者	３	２	１	０	５	６

※ ０１年度 欠席者欄の（ ）内の数字は、途中で帰宅した生徒。通院８回。

※ ０２年度 宿舎から通院も。途中帰宅者なし。

※ ほとんどの年度で、参加直前まで体調不良の生徒・欠席者が続く。

※ 宿舎待機者には、スキー場近くの観光地を見学するなどの代替措置を用意。

〔資料４〕 １９９９（Ｈ１１）年度の欠席者数 生徒数１０５名

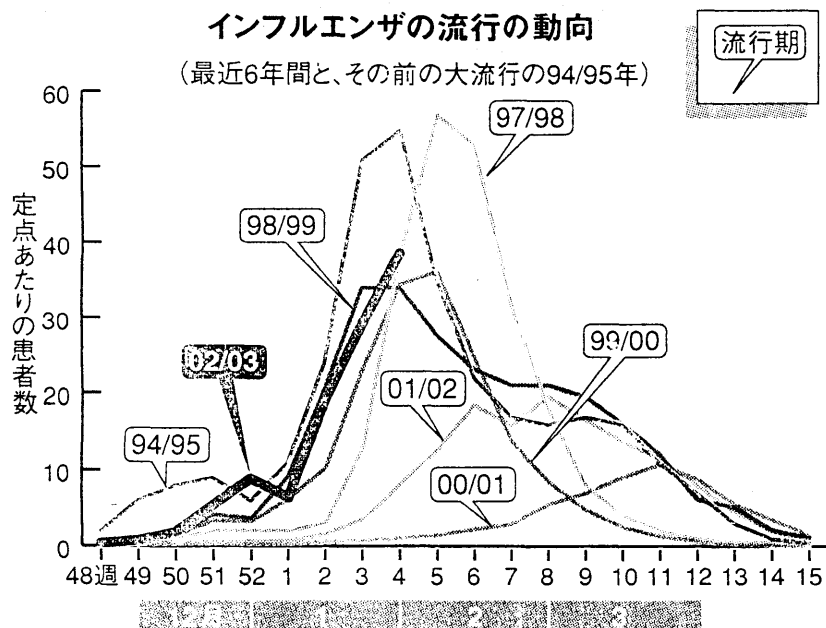
	修学旅行前						修学旅行中			
日	２４	２５	２６	２７	２８	２９	３０	３１	１	２
曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
欠席者数	１６名	２０名	学年 臨時休業		１５名	７名 １組臨時休業	３名	３名	３名	３名

※ 旅行後の２月５日に、一クラスで臨時休業。

〔資料５〕 ２００２（Ｈ１４）年度の欠席者数 生徒数１０１名

	修学旅行前		修学旅行中			
日	３	４	５	６	７	８
曜	月	火	水	木	金	土
欠席者数	１６名	振休	１１名	１１名	１１名	１１名

※ 本来、１０日（月）を振休にするはずだったが、３日（月）の時点で欠席者が多かったため、１０日（月）の振休を４日（火）に設定した。旅行後の１０日（月）の欠席者（出席停止ふくむ）は、なお２３名に及んだ。



(3) 目的地の変更 ―変更決定までの経緯と理由―

<2002 (H14) 年度> スキー修学旅行を実施

- ・11月に1年生の修学旅行先を例年どおり「長野」と決定する。
- ・第2学年が2月上旬にスキー修学旅行を実施する。
- ・旅行での欠席者が多かったことなどから、旅行終了後に学校長が、全員が参加・体験できる修学旅行を実現できるように、スキー修学旅行をやめ、目的地変更の方針を示す。
- ・2月の職員会議でこれについて話し合う。次は議案に対する主な意見。
 - ・「スキー」側 : スキー体験学習での充実感は捨てがたい。
 - ・「変更」側 : 全員参加が修学旅行の基本である。
- ・校長が来年度4月のPTA総会で了解を得るため、早急に関東方面の旅行案を提示するように担当学年に指示する。
- ・3月上旬、旅行案を提示する。

<2003 (H15) 年度> 修学旅行は実施せず。

- ・4月 PTA総会で校長が目的地変更を提案し、了解を得る。
- ・7月 第2学年教師4名が東京方面へ下見。

< 2004 (H16) 年度 >

- ・ 5 月 関東方面（富士山・河口湖・東京・TDL）へ修学旅行。

< 2005 (H17) 年度 >

- ・ 5 月 関東方面（鎌倉・横浜・東京・TDL）へ修学旅行。

[資料7] 2004 (H16) 年度以降の参加者

年度(平成)	03 (15)	04 (16)	05 (17)	06 (18)	07 (19)
目的地	—	関東	関東	関東	未定
生徒数	—	62	85	86	63
欠席者	—	1	1		
参加者	—	61	84		
内見学者	—	0	0		

(4) 関東方面への修学旅行 2年が経過して

[資料8] スキー修学旅行と関東方面修学旅行の比較

	スキー修学旅行	関東方面修学旅行
費用	約56,000円 (H14年度)	約59,000円 (H17年度)
長所	・ 一カ所にとどまり、十分に時間をとって体験学習を行うことができる。 ・ 体験学習を通して技術が向上し、充実感、達成感を味わえる。	・ 全員が参加・体験できる。 ・ けがや病気が発生する可能性が低くなる。 ・ 見学地の選定によっては、日ごろの学習を発展させることができる。
短所	・ 風邪、インフルエンザ等の流行時期と重なり、欠席者や宿舎待機者などが多い。 ・ 欠席者が多い場合、参加者の費用負担が増える。(スキー講習代等)	・ 移動時間が長く、じっくりと体験学習ができにくい。

3 関東方面への修学旅行

(1) 本年度第3学年の取り組み・・・総合的な学習と修学旅行

① 目的地変更を受けて（H15年度 第1学年）

- ・目的地変更の最終決定（PTA総会で了解）は、第1学年の4月。
- ・修学旅行には、日ごろの学習を何らかの方法で結びつけて実施しようと、学年で4月段階に話し合う。
- ・3年間を見通したおおまかな計画を立てる。
- ・しかし、「総合学習のこれを修学旅行に結びつけよう」ということまでには至らない。

② 実施までの取り組み —「総合的な学習の時間」の計画・実施—

本校の「総合的な学習」（東中タイム）のねらい

- ・自己学習力を高める。
- ・主体的、創造的に取り組み、自らの生き方について考える。



学校全体の計画

- ・2003（H15）年度 人権＋学年裁量
- ・2004（H16）年度 人権＋学年裁量＋情報
- ・2005（H17）年度 人権＋学年裁量



本年度第3学年の三年間のねらい → 次ページ

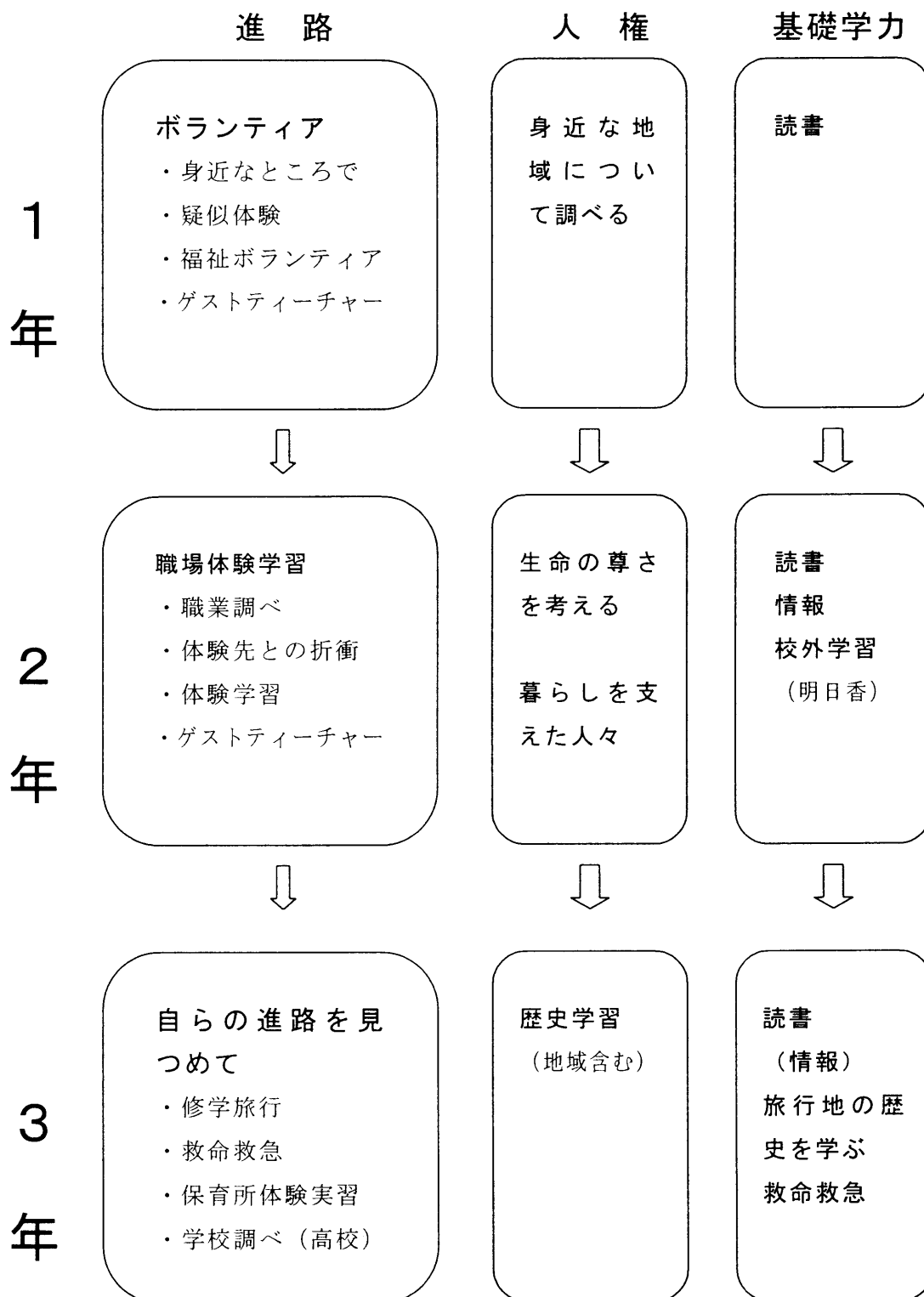
- ・進路 : 将来の進路をみすえ、職業や働くことについての正しい知識と認識を培う。
- ・基礎学力 : 調べ、まとめ、発表する力を培う。
- ・人権 : 自他共に大切にできる人間づくりを目指す。



修学旅行における具体化 → 次々ページ [資料9]

- ・進路 : 見学地でゲストを招き学習する。
- ・基礎学力 : 見学地について、特に歴史的分野と環境について学習を深める。
- ・人権 : なかまと共に支えあい学びあう。

総合学習と修学旅行



[資料 9 昨年度と本年度の目的地]

	昨年度の目的地	本年度の目的地 [総合学習との関連]
1 日目	・ 富士山 (5 合目、氷穴)	・ 鎌倉班行動 [歴史] ・ 横浜 [歴史] ・ 宿舎で [進路]
2 日目	・ 国会 ・ ディズニーランド	・ お台場 [歴史] ・ 日本科学未来館 [環境] ・ ディズニーランド
3 日目	・ お台場 ・ 日本科学未来館	・ 国会 [公民]

(2) とくに「進路」と修学旅行について・・・「進路」学習のねらい

< 1 年 ボランティア >

- ・ 社会への奉仕の気持ちを深め、それを実践しようとする態度を培う。
- ・ 社会や人に役立つことの喜びを感じるとともに、自分が社会の一員として役に立ちうる存在であることへの理解を深め、社会において人々との連帯感を育む。
- ・ さまざまな人とのかかわりを通して、見聞や視野を広めるとともに、社会の一員としての自覚をもつようにする。

< 2 年 職場体験 >

- ・ 将来の職業生活や卒業時の進路選択に備えて、働く目的や意義について考える。
- ・ 望ましい職業観・勤労観を養い、主体的に職業を選択できるようにする。
- ・ 職場での勤労体験を通して、責任感とけじめのある行動をすることの大切さ、人と人とのつながりや人と地域とのつながりの大切さを実感し、今の自分の学校生活につなげていく。

< 2 年 「私のしごと館」見学 >

- ・ 職業体験の総まとめとして、さまざまな職業について興味・関心を深める。
- ・ 自分の将来を見据えて、職業への適性を考える。

< 3 年修学旅行 ゲスト・ティーチャー >

- ・ 職業に関する学習の一環として、ホテルの仕事をするなかでの喜び、生きがいなどについてお話を伺い、自らの職業観を養い、進路選択の良きアドバイスをいただく。

第1学年 「進路」学習指導計画

はじめに、第1学年での進路学習についての計画をあげる。

【1学期】 ボランティア体験学習

- ボランティアって何だろう
- 身近なことからやってみよう → 校内や学校周辺の美化活動

【2学期】 疑似体験、福祉ボランティア

- もう少し広い視野でボランティアについて考えてみよう
- 自分たちがしたい、できるボランティア
- 疑似体験
- 福祉ボランティア（シルバーケアまほろば、済生会中和病院）
 - ・ ボランティア体験計画表
 - ・ 打ち合わせ
 - ・ ボランティア本番
 - ・ 体験を終えての感想
- その他の地域ボランティア
 - 保育所、駅、長谷寺、施設「ぼたんの広場、識字学級」
 - 学校美化、地域美化

【3学期】 ゲスト・ティーチャー

- ゲストティーチャー（Nさんら三人の障害をもつ人）
- ゲストの紹介、質問をまとめる、手話や点字に触れる。
- メモを取りながらゲストの話を聞く。
- メモを見ながらまとめのプリントを書く。
- ゲストへのお礼状を書く。

- ボランティアについての班ごとの意見発表会

生徒の感想文（１年時）

疑似体験の感想 １年

○ 水平な道は自分の力でかんたんに動けたし、自分の向きを変えることもできたけど、少しの段差を上がることは一人ではできなかった。階段は一人ではまったく通用しないし、とても不便だと思った。こんなに不便なんだから、はじめから建物をつくるときはバリアフリーにすればいいのに、どうしてこんな不便な作り方をするのか分からなかった。また、最近、悪くなりがちな町のマナーをもっと見直して誰もが心地よく暮らすことのできる社会にするべきだと思った。

ボランティア体験を終えて（１年２学期）

○ わたしのとなりでちぎり絵をしていたおばあさんは、耳がよく聞こえないようです。私はその人と話がしづらく、３０分ほどした時点であきらめていました。あとで看護師さんが「さっき笛で演奏してくれたね。どうでしたか？」と聞くと、おばあさんはゆっくりでしたが、はっきりと、「すごくよかった。しっかりそろっていたなあ」と言ってくれました。すごく嬉しかったです。もっとあきらめずに、話していればと思いました。

○ 訪問では大きな声ではっきりと話しているつもりでも、昔話のときなど、大勢の人に話しかけるときは、あまり伝わっていないように感じた。でも、１対１で話すときは、意識して話すと上手く伝わることも多く、会話も弾んだ。行く前はもっとイメージを悪く考えていたが、思ったよりも話していて楽しかったし、老人と話すと、なんだかやわらかくなれるように思った。伝えようと思って話すと、相手の人も分かってくれるということが分かった。

ゲストティーチャー＆総合「ボランティア」のまとめ（１年３学期）

○ 私は三人がそれぞれたくさん趣味をもっておられたことがいいなあと思いました。私は、夢中になれることが特にありません。Nさんが、「何でもチャレンジしてみて」と言ってくださったので、一つでも新しいことをやってみたいなあと思いました。

○ お話から、その人が求めていることを探すのではなく、目の前にあることからしてあげるではなくて、一緒にやろうという気持ちをもってやるのが、きっと喜ばれると思うし、大切だということも分かった。又、特別な技術はいらなくて、目の見えない人が困っていたら声をかけて、一緒に歩いていくだけでもすごく安心されるということを知って、少し手伝うだけで、困っている人が安心するということが分かった。

第2学年 「進路」学習指導計画

次に、第2学年の進路学習についての計画をあげる。

【1学期】 職業について 明日香校外学習（→別ページ参照）

- 働く意義・目的。職業選択。
- 自分を知らう 『13歳のハローワーク』から
- 独立・開店・開業 あなたはどれに向いている？
- 職業分類
- 職場体験学習の職場決定について
- ※ 他に、
 - ・推理ゲーム
 - ・VTR『プロジェクトX』視聴

【2学期】 職場体験学習

- 希望の職場に申し込みをして了解を得る
(1学期末～夏休み)
- 職場へ打合せに行く(9月下旬)
- 職場体験学習当日(11月上旬)
- お礼の手紙を書く
- 体験のようすを模造紙にまとめる
- 体験のまとめをパソコンで入力する → 一つの冊子に
- 冊子をもとに学年で発表会
- 「節の日」の全校集会で発表

【3学期】 「私のしごと館」見学

- 「私のしごと館」とは
 - 見学の内容
 - ・自由見学(探索、歴史・未来、じぶん発見の各ゾーン)
 - ・職業適性検査(PC)
 - ・職業データベースの使用(PC)
- ゲスト・ティーチャー(テーマ:命)
- ・産婦人科医をゲストに迎えて

生徒の感想文（２年時）

職場体験学習のまとめ（２年２学期）

（１）感想（私の職業観など）

○ 大人になれば自分の夢であった仕事をする人もいるし、自分の夢を実現するために仕事をする人だっている。けれど、上手くいくとは限らないし、働き始めたときには上手くいっても、いつなにかあるか分からない。仕事をするまでも大変だし、仕事をしていても大変なんだと思った。お金はただでは入ってこない。働くからこそ入ってくる。だから、自分が大人になったときは苦勞することももちろん覚悟して生きていかなければならないと思った。（自動車整備工場）

○ １日目が終わって、こんなに疲れるものなのかと思った。幼稚園の先生は楽しそうなイメージがあったが、どんな仕事にも長所があり、短所があることをあらためて感じた。もちろん、疲れる反面楽しかったし、おもしろかった。ささいなことでも真剣に取り組む姿は幼稚園児らしかったし、楽しそうに遊んでいる子どもは見ていると飽きなかった。幼稚園の先生からはもちろん、園児から学んだこともあったのは後で考えれば驚きだと思う。有意義な二日間だった。（幼稚園）

○ 勉強より仕事のほうが楽と思っていたが、はっきりいうと授業中座れているほうがすごく幸せに感じた。ずっと立っているのが本当に足が痛かった。商品を整理してたたんであっても、さっきやったばかりなのにお客様がさわったあとではぐちゃぐちゃになっていた。今まで店に行ったときは触ったらそのままにしていたので反省した。（スーパーマーケット）

○ はじめは普通の病棟に行くのかと思っていました。しかし、医療の病棟でした。おばあちゃんやおじいちゃんがたくさんいました。行ったすぐに、担当者の方と挨拶をして、仕事に入りました。はじめはテーブルふきをしました。そのあと、１階のリハビリ室へ患者さんを移送しました。エレベーターの中では、はしにつめて乗らなければなりませんでした。患者さんは寝たきりの人が多くて、お風呂は寝たまま入る人が多かったです。お風呂場では、ナース１人と介護士さん２人がいました。お風呂はスライド式で設備がすごいなと思いました。医療の仕事は本当に大変です。でも、私は将来は看護師になりたいと思います。（病院）

（２）五・七・五

○ 大変な 商品整理 がんばるぞ ○ ふりむけば にっこり笑った 女の子
○ こわいよう 上からオイルが ふってくる
○ 足いたい けどこれでも 笑顔です ○ 将来は 看護師になって 人助け
○ いよいよだ 商品出せて うれしいな

第3学年1学期 「進路」学習指導計画

今年度1学期の計画をあげる。

- 【修学旅行前】
- 作文「10年後のわたし」、自分史年表を作る。
 - ゲストから話を聞くにあたって司会を決める。
A君、B君の二名
 - 司会がゲストへの質問を考える。

- 【修学旅行中】
- ゲストから話を聞く。
 - ・ 一泊目のホテルで、夕食後に。
 - ・ Aさん（ソムリエ）、 Bさん（総料理長）、
Cさん（宿泊課長）、
 - ・ 多くの質問

- 【修学旅行後】
- ゲストの話をまとめる。

- 【夏休み前】
- 救急救命講習

生徒の感想文（３年時）

修学旅行 ゲスト・ティーチャー 印象に残ったこと

Nさん（ソムリエ） Yさん（総料理長） Aさん（宿泊課長）

○ 三人とも最初（小さいころ）は、今の仕事になりたいと思っていなかったらしいし、ちょっとしたことからこの仕事に就きたくなったと言っておられたので、私もこれから何かやりたい仕事が見つかるかもしれないと思った。三人の方は自分の仕事に誇りを持っているとすごく思った。

○ ソムリエが何なのか今まで分からなかったけど、Nさんの話を聞いて少し興味がわいた。でも、お客さんと話をするのは大変だなあと思った。自分の機嫌が悪いときやテンションが低いときも、お客さんに合わせて楽しくしないといけないので、その人はしんどいし、疲れそうだなあと思った。

○ Yさんの話は分かりやすかった。高級料理をつくる人だから、私たちが食べるようなファーストフードは食べないのかなあ、と思っていたけど、味の研究というかヒントを探すためにいろんなご飯を食べる、と聞いてちょっと意外だった。あと、服もデザイン重視だと思っていたけど、火傷したらすぐ脱ぐためになど機能たっぷりですごくびっくりした。もし私が大人になって東京に行ったら、もういちどNホテルに行ってワインを飲んだりしたいなあ・・・と思った。どの仕事もととてもやりがいがありそうで、やってみたい！！

鎌倉（俳句とその解説）

○ 「大仏が 春の中俺と 目をあわす」

（階段でこけかけた自分。振り向くと大仏と目があった。）

○ 「苦勞して ふと見渡せば 同じ店」

（地図を見ながら苦勞して歩いていく。ふと周りを見れば、さっき通った店の前を通っていた。）

○ 「関西弁 むこうの皆さん ご注目」

（関西弁でしゃべっていると、どこからともなく視線を感じてしまう。

道順を尋ねても、相手の人に、にやつかれた気がしてならない。標準語と接する面白さは体験したが・・・。そんなに奇妙ですか？関西弁って？？）

(3)「歴史」と修学旅行

2年生で歴史の深い明日香村で校外学習を行った。修学旅行での鎌倉班別行動を念頭において、ここでも班別に見学計画を立て、行動した。また、「総合」歴史として、事前に明日香について調べ学習を行った。

3年生では、修学旅行の見学地である鎌倉、横浜、お台場、国会について、次の「ねらい」に示すように、事前学習を行い、修学旅行に備えた。

○ 2年時 校外学習のねらい

- ・初夏の飛鳥路を歩き、自然の豊かさや歴史のロマンを感じよう。

← 「総合」歴史のねらい

- ・班行動をする中で、協調性・責任感を養おう。
- ・公共の場での社会的なマナーを学ぼう。

○ 修学旅行における「総合」歴史のねらい

- ・修学旅行で訪れる見学地は、わが国の歴史においてどのような意味をもつ場所であったのかを事前に調べよう。
- ・事前学習をふまえ、関心をもって活動しよう。

○ 見学地の歴史についての事前学習

- ・3年4～5月
- ・鎌倉、横浜、お台場、国会について調べる。
- ・個別学習のあと班別学習・・・各クラス4班×3＝12班

見学地	歴史の全体像	歴史的景観	活躍した人物
鎌 倉	鎌倉時代全体 (C 3)	鎌倉の歴史的景観 (C 4)	鎌倉時代の人物 (A 4)
横 浜	江戸時代～明治 (A 3)	横浜の歴史的景観 (C 2)	横浜に関係する人物 (A 2)
お台場	江戸幕末 (C 1)	お台場の歴史的変化 (A 1)	幕末の人物 (B 2)
国 会	国会の歴史 (B 1)	国会のしくみ (B 4)	国会で活躍した人物 (B 3)

- ・発表会・・・各班が作成したものを学年で発表する。

<修学旅行後のアンケート結果>

質問 1. 見学地の歴史についての調べ学習をどう思いますか。

よかった 82% ふつう 6% よくなかった 12%

質問 2. どのようなことで

① よかったですか。

- ・見学するだけだったら、あまりよく分からないままに通り過ぎただろうと思う。勉強してあったので興味を持って見学していた。
- ・調べてまとめるのが楽しかった。みんなで4か所を調べたので、いろいろ知ることができた。
- ・調べることは2年生で習った歴史が多くて、復習になって、しかも実際に見ることができてよかった。
- ・国会のことはまだ習っていないけど、先に議事堂を見られてよかった。

② ふつうでしたか。

- ・鎌倉の班別行動のコースで見学する所を調べたほうがよかったと思う。

③ よくなかったですか。

- ・歴史にはあまり興味がないので。
- ・調べた所を実際に見学していないのが多かった。

質問 3 歴史に関する4か所（鎌倉、横浜、お台場、国会）を見学して、どのような感想をもちましたか。

（鎌倉）

- ・町並みなどの雰囲気京都に似ていた。都を置くときに、政治の中心ということで、京都に似せたのかなと思う。
- ・古い町並みが残っていて、とても落ち着くところだった。鶴岡八幡宮を見ると、静御前のことを思い、少し悲しい気持ちになった。

（国会）

- ・国会議事堂はすごく興味があったので、中に入れてよかったです。中央玄関の伊藤博文、板垣退助、大隈重信の銅像を見れてよかった。
- ・国会議事堂へ入って、国会の歩んできた道を勉強していたので、この国会の場があるのは、当時の人々のおかげなんだと思った。
- ・ここで数々の歴史が生まれてきたんだなあと思った。

（お台場）

- ・今は有名な観光地になっているけど、歴史は古いんだなあと思った。

（４）「環境」と修学旅行

本校では、理科（必修、選択）を中心に、環境教育について次のような目標を設定して実践している。

環境に対して、主体的な判断・行動ができる姿勢を育てること。

- ・知識量ではなく「どうなっているの？」という疑問をもち、その都度正しい認識をもとうとし、自分の生活に生かす力を伸ばす。
- ・その結果、環境との関わりまでが及ぶ積極的な姿勢をもつこと。
- ・その時、自分たちの将来が絶望的ではなく、自分を守るための学習や活動が地球環境保護とリンクしていることを確認する。（循環の認識・自分は出口であり、入り口である。）

本年度は、普段使用している洗剤などの成分（化学物質を含む）やその働きについて調べていくことで、自分たちの健康や環境との関わりに気づくような学習内容を計画している。また、次のような点に配慮して実施している。

【環境への感受性を育成するために】

- ・自然観察体験を取り入れる。（初瀬川の水生生物）
- ・制作活動を取り入れる。（環境との関係を考慮した石鹼やクリーナー作り）

【環境への理解を深めるために】

- ・映像資料活用とゲームを取り入れる（洗剤等に含まれる物質についての基礎知識）
- ・調査活動を取り入れる方法（洗剤等の材料調べ）
- ・学習の統合化を取り入れる方法（上の二つを整理統合）
- ・地域の人材、教材を取り入れる方法（化学物質の実際と水質について）

【環境に積極的に関わるために】

- ・環境保護に取り組む方法（調査・体験活動で得た事実や知識をまとめ、周囲に知らせる）
- ・社会と関わる方法（上に関わって、保護者モニターから意見・感想を聞く）

修学旅行の中に環境教育を取り入れることは、見学地の選定や学習内容との関係で、充分に行えていない。ただ、日本科学未来館を見学するので、理科の課題としてワークシートを配布し、意識的に見学するよう仕向けた。環境に関する展示についての感想として次のようなものがある。

K A Z Zは流線型の大型電気自動車。8WDでホイールごとにモーターが搭載されており、その馬力は590馬力とすごい車である。ナンバープレートがついているのでそのまま公道も走れるし、電気自動車なので排ガスも出ず、環境にもいい。

4 成果と課題

<成果>

- ① 修学旅行の目的地を変更したことから、全員参加が実現した。
- ② 修学旅行を単なる行事としてとらえるのではなく、「学び」の場としてとらえ直す方向ができた。
- ③ 三年間を通した進路学習の一環として、修学旅行でもこれを実施することによって、現実の職業人の生き方や職業観に以前に増して関心を抱くようになり、自らの進路について深く考える生徒が多くなった。
- ④ 日々の授業と修学旅行を連関させることにより、日々の学習意欲を高め、知識や理解をより深化・発展させることができた。また、見学地において関心や目的意識をもって行動する修学旅行を実現できた。

<課題>

- ① 修学旅行を「学び」の場として、より充実していくため、総合的な学習のあり方を再検討し、工夫・改善する。
- ② 体験的学習を取り入れるようになったため、安全面の観点から、活動場所などの諸状況を事前に的確に把握すること、安全面での指導を充実させること、生徒の活動状況をリアルタイムに把握する手立てを工夫することなど、より徹底する必要がある。

研 究 発 表 ②

「北海道への修学旅行」

— 地域の特産物・南高梅のPR活動の取り組み —

和歌山県みなべ町立上南部中学校

教諭 野田 明

1	はじめに	-----	2 4
2	地域に根ざした取り組み	-----	2 5
3	修学旅行の具体化	-----	2 7
4	南高梅のPR活動	-----	2 9
5	まとめ	-----	3 3
	(資料1) 南部川村での産業別就業者割合	-----	3 6
	(資料2) 南部川村における農家人口の割合	-----	3 6
	(資料3) ふるさと学習で5年間に生徒たちが取り組んだテーマ	-----	3 6
	(資料4) 修学旅行アンケート	-----	3 7
	(資料5) 修学旅行に関する事前学習1とおもな意見	-----	3 8
	(資料6) 修学旅行に関する事前学習2とおもな意見	-----	3 8
	(資料7) 梅PR活動についての生徒感想文	-----	4 0
	(資料8) 地方新聞に掲載されたもの	-----	4 1

北海道への修学旅行

— 地域の特産物・南高梅のPR活動の取り組み —

和歌山県みなべ町立 上南部中学校

教諭 野田 明

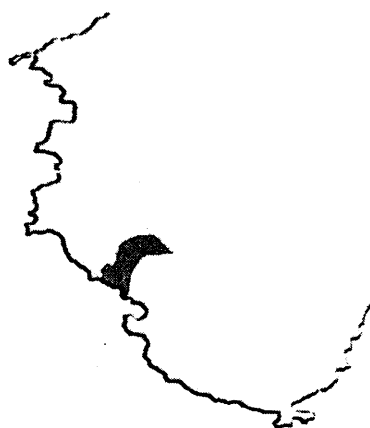
1 はじめに

学校および地域の概要

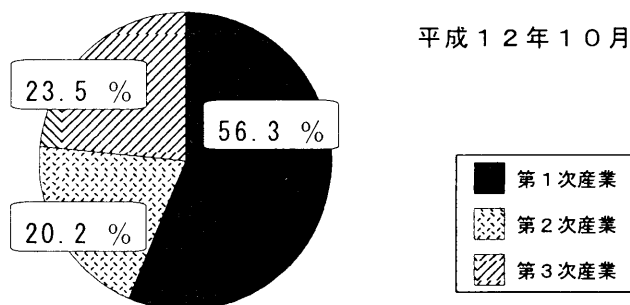
みなべ町は、紀伊半島の南西部、和歌山県の海岸線のほぼ中央に位置し、町の中央を山地から紀伊水道へと南部川が流れている。昨年10月、旧南部町と旧南部川村の合併により新しく「みなべ町」として誕生した。面積は120.26平方キロメートル、人口14,877人（平成17年6月末現在）で、本校は旧南部川村に校区を置いている。

交通面では、海岸線に沿った南北方向には国道42号、JR 紀勢本線が通り、南部川に沿った東西方向には国道424号が通っている。また、高速道路阪和自動車道がみなべインターチェンジまで延びたことにより、大変交通が便利になった地域である。

校区のある旧南部川村は南部川水系の豊かな自然に恵まれた純農村地帯で、第一次産業への就業者割合が56.3%となっており、全国平均の5.0%に比べて極めて高く、典型的な農林業主体の地域である。そして、農家人口の割合（農家世帯員数÷総人口）が79.5%を占め、県下の市町村のうちで最も高い数値を示している。明治以降、先人たちの偉大な尽力のおかげにより日本一の梅の生産量を誇っている。同時に、それらの梅の加工・販売も盛んで、まさに梅を中心とした産業の複合体として形成されている地域である。また、特産の紀州備長炭も多く生産されている。



みなべ町の位置



南部川地区での産業別就業者割合
(産業別就業者÷全就業者)

このような恵まれた自然環境の中で育った生徒は、全体的に素朴で真面目な生徒が多い。学習態度もよく、落ち着いた学校生活を送っている。そして、地域の人々は教育に対する理解と関心が深く、保護者は学校への協力を惜しまず、本校教育の推進の大きな支えとなっている。

本校の生徒数

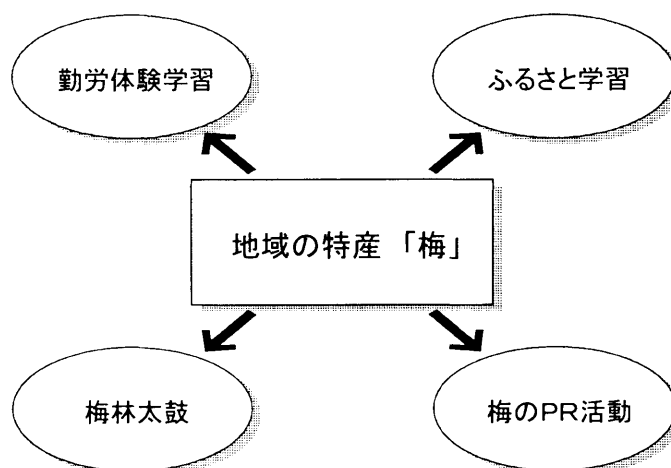
	1 年	2 年	3 年	合 計
男 子	2 8	3 3	3 2	9 3
女 子	2 5	2 7	3 2	8 4
計	5 3	6 0	6 4	1 7 7

平成17年9月1日

2 地域に根ざした取り組み

梅を中心とした学習

前述のように、校区をふくめて私達の地域では梅（南高梅という品種）が広く作られていて、生徒たちの家でも直接梅を生産している家庭が大変多い。そのため、本校の教育活動の中に、地域の特産「梅」に関連したさまざまな取り組みを見いだすことができる。



ふるさと学習

1年時には、総合的な学習の時間の中で、地域を調べるということを大きなテーマとして同じ課題を設定した少人数のグループを編成し、調べ学習を行っている。章末の（資料3）は過去5年間に生徒たちが取り組んだものである。これを見ると、その内容は自然・人文・地理・歴史・・・と多様である。そして、その中の一つとして、生徒たちは地域で梅作りが盛んになってきたことや、先駆者の大きな熱意と苦勞などについて学んだ。

勤労体験学習

6月になると梅の実は一斉に収穫の時期となり、地域では一年中で最も忙しいときを迎える。そこで、本校では6月を「梅採り勤労体験月間」として、家族とともに汗を流すこ

とで様々なことを学ぶときと位置づけ、部活動よりも優先して次のように取り組んでいる。

◇平日の放課後、また土・日曜日、家庭で子どもたちの労働力が必要な場合、部活動よりも優先。

◇6月末までの土・日曜日にかけて、少なくとも一日は家族とともに「勤労体験」を行う。

梅採り勤労体験参加率の例

平成17年

	6月18日(土)	6月19日(日)
1年	83 %	75 %
2年	61 %	63 %
3年	65 %	68 %

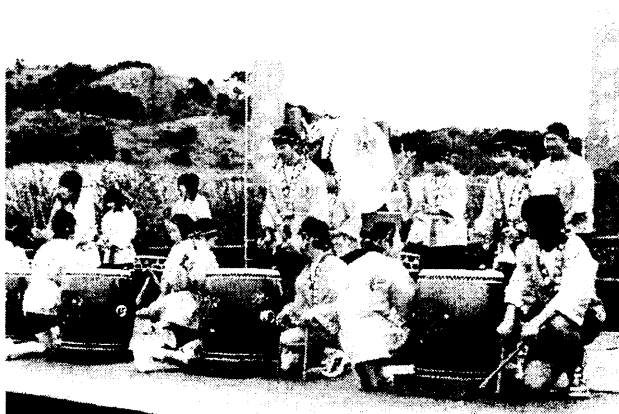
学年の生徒数に占める割合

梅林太鼓

2年時には、総合的な学習の時間の中に太鼓を取り入れ、梅を題材とした紀州梅林太鼓、若梅フェスタ等の曲目を練習している。2月、地元の南部梅林には大勢の観光客が訪れる。そのとき、アトラクションのひとつとして、梅林内で太鼓演奏を披露している。

写真

平成17年2月13日



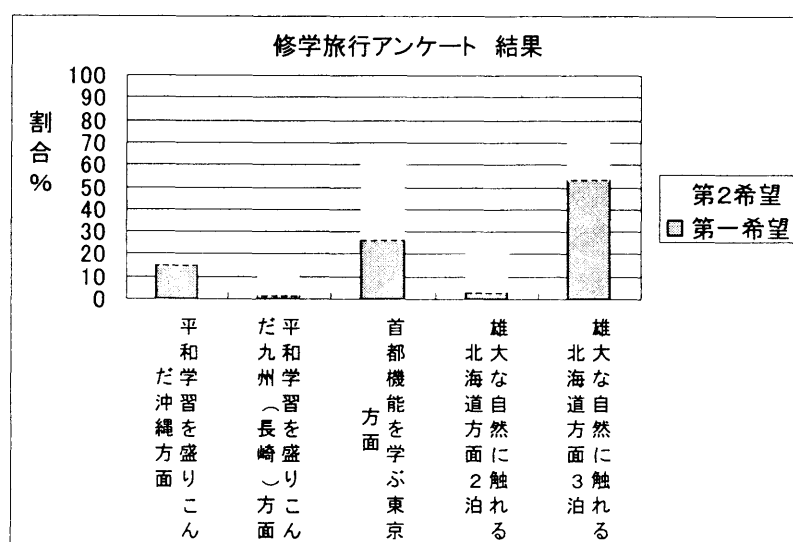
3 修学旅行の具体化

北海道へ

本校での修学旅行の行き先は、ここ数年は北海道である。北海道の前は東京方面へ行っていたこともあるという。修学旅行へ向けての学校の基本方針を考える時期にアンケートで保護者の声を聞いたり、数社の旅行取扱業者による入札をしていることが、行き先の決定に関わって特徴的なことである。

今年度、乳搾りなどの農業体験、小樽でのフィールドワーク、梅のPR活動等のねらいをもって、3泊4日で北海道への修学旅行を行った。次に、これに至るまでの経緯をあげておく。

取り組みの時期、ことがら		検討事項など
2年時	○保護者アンケートの実施 ○方面の決定 ○旅行取扱業者へ依頼 ○業者の選定	○学校の基本方針 ○アンケートの分析 ○旅行のねらい ○基本計画 ○モデルプランの比較・検討 ○決定の通知と依頼
3年時	○細部打ち合わせ ○修学旅行実施	○体験学習の計画



修学旅行アンケートの結果と分析

- ①ここ数年来実施している北海道方面への3泊4日を第1希望としている割合が半数強である。
- ②そのときに第2希望として東京方面を選択している割合も高い。

目的と行程

目的

- 見聞や体験を通して、教室だけでは学べないものを学習する。
- 大自然の美しさにふれ、豊かな情操を育てる。
- 集団行動を通じて協力し、思いやることの大切さを実感し、自他の健康安全に留意し、集団の決まりや公衆道徳を守る力を身につける。
- 友情を深め、学年および学級の和をより深める。

目的の具体化

- 1日目 農業体験、札幌見学
- 2日目 小樽フィールドワーク、梅PR活動、札幌見学
- 3日目 アイヌ民族博物館、有珠山西山火口で研修
- 4日目 函館見学



行程

5月24日（火）～5月27日（金）の3泊4日

1日目

学校===関西空港→→→→→千歳空港===ハイジ牧場===羊ヶ丘===
===藻岩山夜景観光===ホテル（札幌市）

2日目

ホテル===札幌駅――小樽駅……小樽：フィールドワーク……小樽駅――
――札幌駅（梅PR活動）===札幌市内見学===大倉山シャンテ===
===サッポロファクトリー===ホテル（札幌市）

3日目

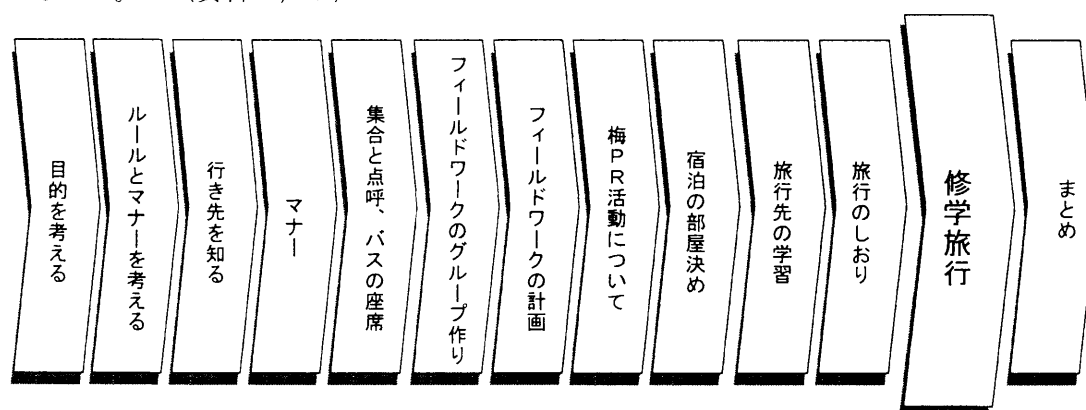
ホテル===白老：ポロトコタン===有珠山：西山火口見学===昭和新山===
===湯の川温泉===函館山夜景観光===ホテル（函館市）

4日目

ホテル===五稜郭公園===函館朝市===元町散策===金森倉庫群===
===トラピスチヌ修道院===函館空港→→→→→関西空港===学校

学習活動の流れ

修学旅行を通して前述の目的を達することとともに、この学習が生徒たちにとって、将来、大人になって、家族・友人などいろいろな関係の中で旅行を計画するときの力になることを期待したい。修学旅行へは何を目的としていくのか、社会の中での、またお互いの間でのルールやマナーにはどんなことがあるだろうか、どんな日程で何をするのだろうか等について、主体的に考えていくことを中心に様々な意見を吸いあげた上で方向付けをおこなった。（資料5，6）



4 南高梅のPR活動

これは平成14年度から旧南部川村のJAの提案に始まった。今では、自分たちの町を代表する特産物「梅」を修学旅行先でPRすることは、学校で取り組んでいる梅を中心とした一連の学習のひとつと考え、まさに修学旅行を大きな学習の場と位置づける活動でもある。梅干しパック（3粒入り）にパンフレットを添えて配布するのであるが、知らない土地で一般の人たちへどのように呼びかけるとよいのかという大きな課題に対して、いろいろな方法（役割分担）を用いて課題解決していく（成功させていく）ことをねらいとした。計画力、行動力、チームワークの発揮とともに、事を成し遂げるときの大きな苦労を知るよい機会となった。そして、やがては地元産業の継承・発展に通じることを願いたい。

《 動機付け 》

- ・ 日本一の梅の産地にある中学校としての期待
- ・ 地域への貢献
- ・ 先人の努力と苦労

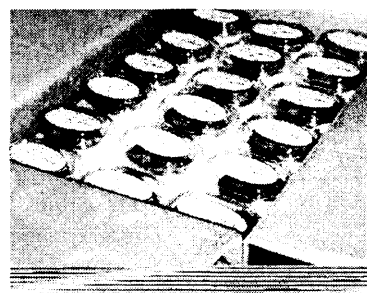


写真
用意した梅パック

❁ よびこみ

PRを始めるとどんどん人が集まってきて、梅をもらっていつてくれた。自分はアナウンスの係をしていて、最初全然声が出ていなくて恥ずかしがっていたけれど、梅を持っていつてくれている人を見たら自然と声が出た。



❁ 案内の掲示

僕の係は「数に限りがございます。」と書かれた紙を高く上げて持つことだった。梅のPRをしているときは本当に梅をもらってくれるのかなあと思っていたけど、すぐにもらいつていつてくれてよかった。



❁ 引換券の配布

おばちゃん達がいっぱいもらってくれた。最初、渡すのに戸惑ったけれど、だんだん慣れた。「ごめんね。」とか言われたりして、結構気がつかった。



❁ 幟持ち

修学旅行でおこなった梅のPR活動で、僕は旗を持つ役でした。すごく恥ずかしかったけれど、学校でいく旅行でしかできない経験ができてよかったと思います。僕たちが宣伝した人たちが梅を注文してくれたら、すごく嬉しいと思います。

❁ 商品引き替え

「欲しいわあ。どうやったらもらえるの。」とか言われてうれしかった。もちろんその後は券を配っているところを教えてあげると、すぐにもらいに行ってくれて、すぐに梅の所まで来てくれて「もらってきたからね。」とか言われて、梅がこんなに人気があるとは思わなかった。



❁ 荷物管理

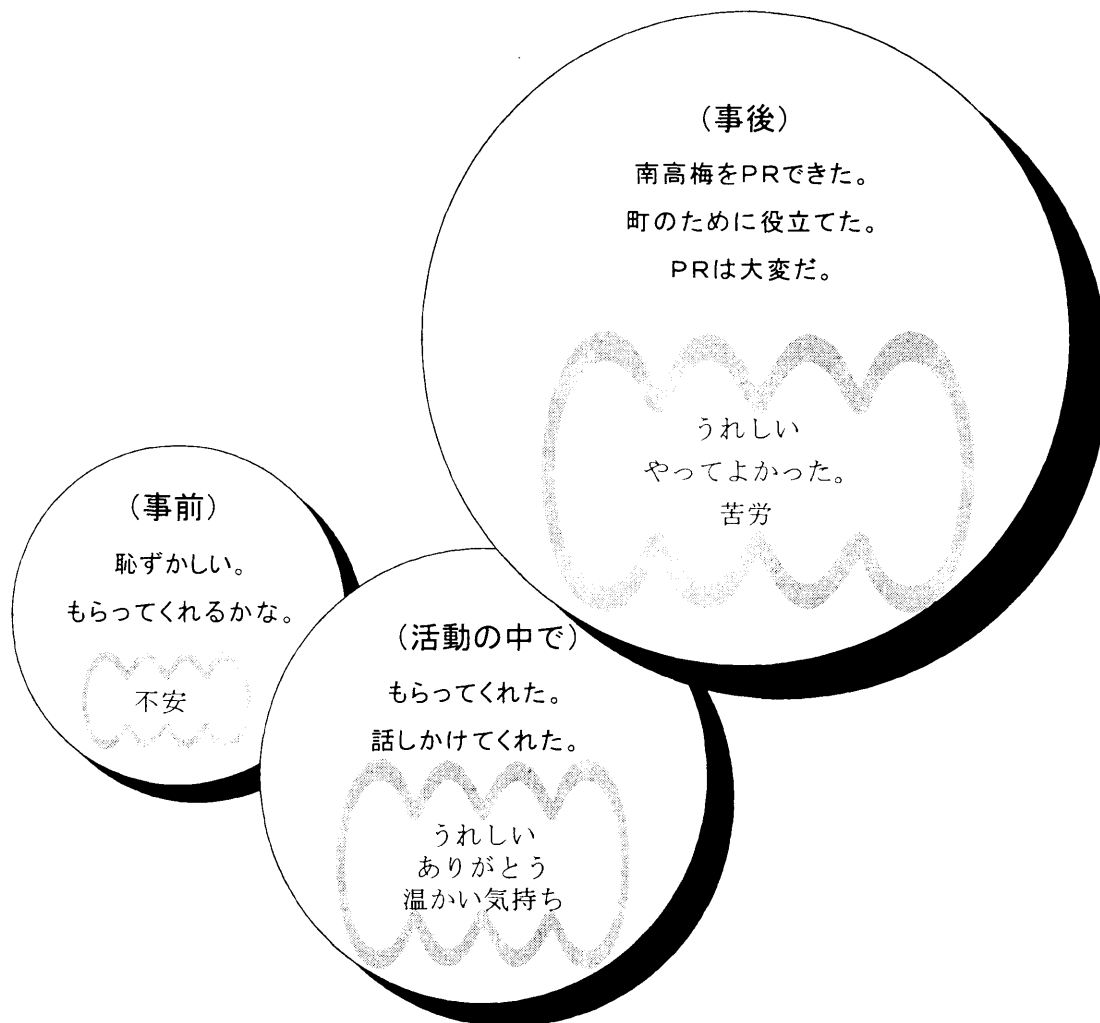
PR活動のときに僕は荷物番だった。だから、感想はそんなにないけれど、校長先生が配っているときに「頑張って下さい。」とか言ってくれていました。自分に言われていないのに、その時はうれしかったです。時間は20分ぐらいでした。先生は「かなり早く終わったなあ。」と言っていました。



生徒の感じたこと

感想を見てみると、梅PR活動の前後で大きく気持ちが動いたことがよく分かる。準備・計画段階から実際に活動に入るまでは、恥ずかしいという気持ちと、もらってくれるかな、なかなかもらってくれないのではないかと、という不安がたくさんあった。そして、札幌駅でPR活動を始めると、思いの外、大勢の人が注目をしてくれたことで、それまでの不安がうれしさに変わり、また、いろいろと言葉を交わす中で、自分たちの活動に心を向けてくれる人々に対して感謝の気持ちや心の温もりをより感じたようである。

生徒達にとって、ふつうに梅に囲まれて生活を送る中では今まで気がつかないこともあった。自分たちの郷里は日本一の梅の産地、南高梅のブランド、これらは小さい頃より知るところである。それを一歩外の世界へ出て、自らの体験活動を通して外から「梅」というものを見つめることができ、実体験をともなって獲得することのできたものがある。梅はこんなにも注目されるものか、自分たちの活動で地元貢献できたという気持ち、事を成し遂げようとするときの勇気や努力、苦勞、喜びなどを知ることができたと思う。



5 まとめ

特産物である梅をPRすること自体を考えると、それは北海道でなければならないという必然はない。実際、同じ取り組みを旧南部川村内にある他の2中学校でも、それぞれ東京、沖縄で今年もおこなった。この場で本校の修学旅行を紹介している中心テーマは、日本一の梅の里として、中学校で続けているそれに根ざした取り組みが、修学旅行という大きな行事の中にも生かされていることである。この活動をおこなったことで、次の3点を生徒達は感じたようだ。

- | |
|---|
| (1) 外から見た「南高梅」
(2) 梅のPR、地元への貢献
(3) 偉大な先駆者への思い |
|---|

(1) について、

梅がどれほど注目される品であるか、人々の反応からつかむことができた。健康によい食品であることなどは知識としてよく知っているが、日常から離れたところで梅に触れ、みなべ町の梅というものを見つめる機会となった。

(2) について、

この宣伝をきっかけに梅を注文してくれる人が増えるといいな。このような感想を書きとめている生徒は多い。自分たちの活動が少なからず地元へ貢献できたという手応えを感じ、それを嬉しく思っているようである。

(3) について、

みなべ町は、南高梅という優良な品種を栽培し、また、その加工・販売の盛んな地域である。生徒達はそれまでのふるさと学習等を通し、内中源蔵氏、高田貞楠氏らの地域の先駆者達が梅にかけた熱意や努力などをよく学んでいる。梅PR活動に取り組んだことによって、地域の偉大な先駆者達の思いを少し体験することができたと思う。

北海道への修学旅行を実施している学校数は、全体の中ではあまり多くないと聞いている。本校の場合、修学旅行の行き先はすでに述べたように2年時からの取り組みで決定しているのだが、今年度の旅行について、その目的設定、また目的の具体化を振り返ると、よく達成できたと考えている。修学旅行は大きな行事であるがゆえに、中学校での一連の学習の中で生徒達にそのねらいとするものを位置づけ、経験を感動とともに作り上げていきたいと思う。

本研究発表では本校での梅を中心とした学習のひとつとして、修学旅行での梅PR活動を中心に取上げた。ところで、梅PRの他にも、今回の北海道への修学旅行では、農業体験、フィールドワーク、アイヌ民族博物館、有珠山西山火口での研修なども目的の具体化として設定をした。最後にそれらのことについて、生徒の感想とともに、ここで簡単に紹介したい。

農業体験

みなべ町は梅作りが盛んなので、本校の生徒達にとって梅に関係する農作業にはなじみがあるが、北海道で経験したような酪農体験はない。わずかな時間、ひとつの作業ではあるが、牛の乳搾りや子牛の哺乳体験をしたことが心に残ることを期待したい。

- ◆牛はすごく大きかった！乳搾りをするとき、周りの牛が怖くてゆっくり乳搾りができなかった。
- ◆山羊の赤ちゃんにミルクを飲ませたり、牛のミルクを搾ったりしました。初めて見る牛はとても大きくてビックリしました。



小樽フィールドワーク

フィールドワーク活動は今では多くの学校でおこなわれていることであろうが、私達は小樽市で実施した。初めての場所ですでなく訪れていくかと計画することは、まさに将来において自分たちで旅行を計画するときの力となる。連れって行ってもらおうという〈受動的立場〉から、自らで地理的なこと・時間的なことなどを目的に応じて複合的に判断していく〈能動的立場〉として行動する力が求められる。安全面や生徒管理など考慮すべき点も多々あるが、フィールドワークをおこなうことで生徒達の得る経験を重視した。



- ◆お昼ご飯をお寿司屋で食べた。そこのおじいさんがタコの卵をおまけしてくれた。みんなおいしそうに食べていたけど、実は私だけ苦手な味だと思っていた。
- ◆これが一番の楽しみだった。博物館で、どっかのおっちゃんに話しかけられた。そのおっちゃんはとても親切だった。いろいろと説明してくれて勉強になった。

アイヌ民族博物館

社会科での学習からある程度の知識を持っはいるといっても、ごく狭いものだろう。それを、北海道への修学旅行を実施したことにより、アイヌ民族について衣食住をふくめた文化を見聞することができた。生徒達にとっては全く新しいものであっただろう。

◆ポロトコタンではアイヌ民族のことについて学びました。魚を干してあるのにはとてもビックリしました。歌や楽器の素晴らしい演奏を聴きました。想像していたアイヌ民族とは少し違いました。

◆ムックリの演奏はすごかった。熊も犬もとてもかわいかった。ムックリを買ってやってみても上手くいなくて苦労したけど、今はもう、少し出来るよ。



有珠山西山火口での研修

和歌山は地質学上、温泉は各地に分布しているものの火山のない地域である。したがって、生徒達には火山そのものも全く異質なものであるが、ここ西山火口では現地の方のガイドによって2000年に噴火したときの火山災害について学ぶことができた。台風、地震とともに火山の多い日本に暮らす私達にとって、この研修も北海道への修学旅行で得た貴重なものであっただろう。



◆地面が熱を持っていたので熱かった。自然の力はすごいと思った。

◆自然の力はすごく偉大だなあと感じました。初めて火山を見てびっくりしました。

札幌・函館市内観光

今まで見たこともないものを、あるいは写真で知っていたものを、札幌市や函館市の中で見てきた。スキージャンプ台、函館山の夜景はそのスケールも大きく、心に残ったようである。

◆生まれてきてこんなにきれいな夜景は見たことがなかった。ほんまにめっちゃ☆キレイ☆やった。

◆言葉に表せないぐらいきれいでした。寒かったけど、感動しすぎて寒さなんて忘れてしまいました。



資 料

（資料１）南部川村での産業別就業者割合

第１次産業	５６．３％	５０市町村のうち県１位	県平均	１０．６％
第２次産業	２０．２％	５０市町村のうち県４２位	県平均	２６．４％
第３次産業	２３．５％	５０市町村のうち県５０位	県平均	６２．２％

（平成１２年１０月１日 国勢調査より）

（資料２）南部川村における農家人口の割合 ７９．５％ 県１位

県平均１５．０％

（平成１２年１０月１日 国勢調査より）

（資料３）ふるさと学習で５年間に生徒たちが取り組んだテーマ

・梅料理について	・驚異の梅肉パワー	・方言の成立
・南部川の自然	・梅林のことについて	・梅の歴史
・梅の歴史	・昔から伝わる料理	・平須賀について
・梅の生産量はどのくらいあるのか	・地名の由来について	・上南部中学校について
・梅と炭	・炭の服	・あなたの知らない須賀神社
・お寺や神社にまつわること	・炭琴	・方言について
・備長炭について	・人口の移り変わり	・梅のつくりかた
・上南部の方言	・上南部小学校統合の理由	・須賀神社と室町時代
・福祉センターについて	・苗字の由来について	・姓について
・上南部の祭り	・淡水魚	・地名の由来
・地名の由来	・地震	・上南部の池
・南部川の災害	・南部川にすむ生き物	・昔の上南部中学校
・南部川村に出土した銅鐸	・炭の種類	・須賀神社について
・平須賀城の秘密	・村長さんについて	・昔の遊び
・上南部中学校の歴史	・梅の歴史と有効成分について	・いろんな梅料理
・梅の種類	・地名について	・今と昔の食べ物
・須賀神社	・南部川ズームイン	・寺と神社
・梅の歴史	・須賀神社の歴史	・備長炭について
	・昔と今の南部川の違い	・南部川村の昆虫

(資料 4) 修学旅行アンケート

2 年生保護者各位

平成 1 6 年 7 月 5 日

上南部中学校

修学旅行アンケートについて

梅雨の候、皆様方にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は本校教育に対しまして、ご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、3 年生の修学旅行が無事終わり、2 年生としても修学旅行の取
り組みについて検討をはじめべき時期になって参りました。来年度に
向けても保護者の皆様や生徒達の意見を取り入れながら、学校として修
学旅行の行き先等を決定していきたいと考えております。

つきましては
ます。

なお、本アン
らい及び行き先
おりますので、
ますよう重ねて

[今後の予

7 月

7 月

7 月 1

◆ ねらい及び行き先について

- ① 平和学習を盛り込んだ沖縄方面への修学旅行 (2 泊 3 日)
- ② " 北九州 (長崎) 方面への修学旅行 (2 泊 3 日)
- ③ 首都機能を学ぶ東京方面への修学旅行 (2 泊 3 日)
- ④ 雄大な自然に触れる北海道方面への修学旅行 (2 泊 3 日)
- ⑤ " " (3 泊 4 日)

(参考資料)

1. 費用 生徒数の違いや行き先等により、一人あたりの金額に違いが生じてきます。

本年度	7 5 , 7 4 7 円	(北海道方面、3 泊 4 日)
昨年度	8 2 , 3 8 4 円	(北海道方面、3 泊 4 日)
平成 1 4 年度	8 4 , 8 3 0 円	(北海道方面、3 泊 4 日)
平成 1 3 年度	7 9 , 4 3 2 円	(北海道方面、3 泊 4 日)
平成 1 2 年度	7 9 , 0 0 0 円	(北海道方面、3 泊 4 日)
平成 1 1 年度	6 6 , 0 0 0 円	(東京方面、2 泊 3 日、片道飛行機)

2. 本年度修学旅行についての 3 年生の意見 (アンケート結果より)

白老 ポロトコタン アイヌの人々の文化、伝統に少しでも触れる
ことができた。

ハイジ牧場 乳搾り体験、家畜飼育体験のほかに遊具施設もあり、
生徒も楽しめた。

.....き.....り.....と.....り.....線.....

上の①～⑤でお答え下さい。

第 1 希望	第 2 希望

ご意見等あれば何でもご記入下さい。

()

生 徒 氏 名 _____

保護者氏名 _____ ㊟

(資料 5) 修学旅行に関する事前学習 1 とおもな意見

◎は多数意見

中学生の「修学旅行の目的」とは何ですか。

- | | | |
|-------------------------|----------------------------|----------------|
| ◎いろんなことを勉強する。 | ・北海道の人の特徴をさがす。 | ことを体験する。 |
| ◎北海道の有名な場所などを見
てくる。 | ◎団体行動ができるようにする。 | ・方言を知る。 |
| ◎みんなで一緒に楽しく旅行す
る。 | ・北海道のおいしいものを食べ
る。 | ・梅の宣伝をしたい。 |
| ◎みんなと仲良くなる。 | ◎北海道の文化を学ぶ。 | ◎和歌山と違うところを探す。 |
| ◎いい思い出を作る。 | ◎初めてのことに挑戦する。 | ・北海道の広い自然を見る。 |
| ◎北海道の歴史とかを楽しみな
がら学ぶ。 | ・北海道の有名な人物について
の歴史を調べる。 | ・牛を見る。 |
| ・大きい建物を見てみたい。 | ・視野を広げる。 | ・買い物する。 |
| | ◎和歌山では体験できないような | ・熊を見たい。 |

修学旅行前に知っておきたいことは何ですか。

- | | | |
|----------------|------------------------|-----------------|
| ◎どこへ行くか。 | ◎持っていくものは何か。 | ・どんなカバンで行くのか。 |
| ◎そこへ行って何をするのか。 | ・土産物はどこで買えるか。 | ・和歌山と比べて気温はどうか。 |
| ◎どんなものが有名な。 | ・北海道にはどれくらいの町があ
るか。 | ・その地域の特色。 |
| ◎どこに何があるか。 | ◎いつ行くのか。 | ・方言 |
| ・飛行機の知識。 | ◎どんな所に泊まるのか。 | ・旅行先の天気。 |
| ◎お金はどのくらい必要か。 | ・北海道の地理。 | ・もしものときの避難場所。 |
| ◎乗り物にどれくらい乗るか。 | | ・一緒に行動するメンバー。 |

修学旅行前に知っておくべきことにはどんなことがあると思いますか。

- | | | |
|----------------|-----------------|------------------|
| ◎どこへ行くか。 | ◎地理的な位置。 | ・どんなところで買い物をするか。 |
| ◎そこへ行って何をするのか。 | ・どんな建物や場所があるか。 | ・危険なところ。 |
| ◎持っていくもの。 | ・服装。 | ・先生の携帯番号。 |
| ◎行動するグループ。 | ・どうやっていくか。 | ・注意や禁止事項。 |
| ・宿泊場所。部屋。 | ・どのくらいの時間で行けるか。 | ・飛行機内でのこと。 |
| ・迷ったときどうするか。 | ◎どのくらいのお金が必要か。 | ・北海道はどんなところか。 |
| ◎毎日のスケジュール。 | ・和歌山と比べて気温はどうか。 | |
| ◎いつ行くのか。 | ◎集合時間と集合場所。 | |

(資料 6) 修学旅行に関する事前学習 2 とおもな意見

◎は多数意見

修学旅行において気をつけておくべきマナーやルールについて、自分なりの考えを書いて下さい。

- | | | |
|-----------------------|-------------------------|----------------|
| ◎持ち物の確認をする。 | ・前日は早めに寝る。 | ・睡眠を十分にとっておく。 |
| ◎健康管理。 | ・体で悪いところがあったら治して
おく。 | ・旅行の目的を理解しておく。 |
| ・持っていく物は早めに入れてお
く。 | ◎予定を確かめる。 | |

旅行中、飛行機・バス内で気をつけておくべきこと

- | | | |
|--------------|----------------|-------------|
| ◎騒がない。 | ・飛行機の中では静かにする。 | ・忘れ物をしない。 |
| ・ゴミを出さない。 | ・身だしなみをきちんとする。 | ・外の景色を見ておく。 |
| ◎他人に迷惑をかけない。 | ・降りるときに挨拶をする。 | |
| ◎マナー、ルールを守る。 | ・窓から顔や手を出さない。 | |

旅行中、見学先で気をつけておくべきこと

- | | | |
|--------------------|--------------------|---------------|
| ◎ガイドさんの話をよく聞く。 | ◎他人に迷惑をかけない。 | ・挨拶をする。 |
| ・よく見る。 | ・騒がない。 | ・時間を守る。 |
| ・不思議に思ったことはメモしておく。 | ◎一人で行動しない。団体行動をとる。 | ・先生の話をきちんと聞く。 |
| ◎物を壊さない。 | ・身だしなみをきちんとする。 | |

旅行中、ホテル内で気をつけておくべきこと

- | | | |
|----------------|-------------|----------------|
| ◎他の人に迷惑をかけない。 | ◎消灯時間を守る。 | ・身だしなみをきちんとする。 |
| ・物を壊さない。 | ・他の人に挨拶をする。 | ・行儀よくする。 |
| ◎騒がない。廊下を走らない。 | ・楽しむ。 | |
| ・ゴミを散らかさない。 | ・食事を残さない。 | |

帰宅後に気をつけておくべきこと（帰宅後に何をしておくべきか）

- | | | |
|-----------------|----------------|-------------|
| ・不思議に思ったことを調べる。 | ◎物を片付ける。整理する。 | ・洗濯物の洗濯をする。 |
| ◎振り返ってまとめておく。 | ◎早く寝る。疲れをとる。 | |
| ・いくら使ったかを計算する。 | ・家族にいろいろと話をする。 | |

その他

団体行動ですから、人間関係で気をつけておくべきことを書いてみて下さい。

- | | | |
|---------------|-------------|----------------|
| ◎仲間外れにしない。 | ・みんなの意見を聞く。 | ・友達に気を配る。助け合う。 |
| ◎自分勝手な行動をしない。 | ◎仲良くする。 | ・約束を守る。 |

(資料 7) 梅PR活動についての生徒感想文

PR活動をして、本当に和歌山の梅をもらってくれる人があるんだろうかと思っていたが、PRを始めるとどんどん人が集まってきて、梅をもらっていった。自分はアナウンスの係をしていて、最初全然声が出ていなくて恥ずかしがっていたけれど、梅を持っていてくれる人を見たら自然と声が出た。そして、たくさんあった梅がわずか20分ぐらいで全部なくなった。自分が住んでいる町の町おこしになったからうれしかった。引換券をたくさんの人が持っていったけど、だいたいの人が笑顔で持っていったからうれしかった。北海道は寒いけど、北海道の人たちの心は温かった。

おばちゃん達がいっぱいもらってくれた。最初、渡すのに戸惑ったけれど、だんだん慣れた。「ごめんね。」とか言われたりして、結構気をつかった。PR活動をしたことによって、たくさんの人に梅を知ってもらえていたらいいなと思う。これから、梅の注文などが増えたらうれしいなあ。最初は緊張したけど、時間がたつにつれて楽しく思った。また機会があればPRしたいなあと思った。

始める前は時間がかかりそうと思っていたけど、配り始めてから何分かかったかは分からないが、早く南高梅を配れてよかったと思う。梅をもらってくれた人の中には話しかけてくれた人もいた。例えば「ありがとう。」とか、いろいろ話しかけてくれた。和歌山県出身の人もいた。北海道の人は梅が好き人が多いのかな。北海道の人は南高梅のことを知っていたんだな。そういえば、コンビニにも南高梅と書かれたおにぎりがあった。梅をもらってくれた人にありがとうといいたいな。

PR活動のときに僕は荷物番だった。だから、感想はそんなにないけれど、校長先生が配っているときに「頑張ってください。」とか言ってくれていました。自分に言われていないのに、その時はうれしかったです。時間は20分ぐらいでした。先生は「かなり早く終わったなあ。」と言っていました。PR活動をする前は、「こんなにたくさんあるのにもらってくれるのかな」と思っていたし、「恥ずかしいな」とも思っていました。しかし、いざやってみると、向こうにいた皆さんは気軽に声をかけてくれました。「これはどこでもらえるのかなあ。」とか「頑張ってくださいね。」とか言われました。全然恥ずかしくありませんでした。PR活動をやった本当によかったと思いました。

配っていると、おばあさん達が「がんばってよ。」「頂きます。」と言ってくれた。知らない人だけど親切でとても温かかった。この活動をしていることで、誰かが喜んでくれていると自分もうれしくなった。最初は、もらってくれる人おるんか？と思っていたけど、人がいっぱい寄ってきて、結構みんな梅を持って帰っていった。時間もかなりかかると思っていたけど、そんなにかからなかった。やっぱり学年全員でやると早く終わる。これはかなりいいことだ。梅をもらってくれた北海道の人たちが、それを気に入ってくれたらいいなあと思った。そして、みなべ町がもっと有名になったらいいと思う。

南高梅をPRする前は梅なんかもらってくれる人があるのかなと思っていた。でも、配り始めるとたくさんの人がもらってくれ、自分からもらいに来る人までいた。梅ってこんなにも人気があるのかと、僕は思った。僕は梅があまり好きでないから、とても驚いた。南高梅のPRをして、PR活動することはとても大変なことだと分かったし、南高梅を北海道の人々に知ってもらってよかったと思う。このPR活動でみなべ町の町おこしに少しでも貢献できてよかったと思った。

始めは、札幌のすごく広い駅で梅配りをするのは、すごく恥ずかしくていやだと思っていました。本当に思っていたよりも人が多くて都会みたいだった。やり始めると、なぜかすごくみんなが寄ってきてくれて、梅をもらってくれたからすごくうれしかった。私の所や、近くへ寄ってきてくれたおばあさんが、「どこから来たの。」とか、「頑張りなさいねえ。」とか、たくさん声をかけてきてくれたので、本当にうれしかったです。梅をもらってくれない人もいたけど、中には2つ目をもっている人もいました。このとき、私はこの梅がこんなに人気のあることを初めて知りました。もう、配っているときは恥ずかしさなんて忘れてしまっていたし、梅をもらってくれることにすごく喜びをもっていた。私達は、みなべ町でふつうに梅に囲まれて過ごしているけど、この梅は実は本当にすごいものだを知った。

「いりませんか。」と聞くと「ほしい。」と言ってくれる人がほとんどだった。すぐになくなったから友達の手伝いに行った。「ありがとう。」と言ってくれてうれしかった。もっと梅を持ってきいた方がいいと思いました。最初、もらってくれないと思ってたけど、もらってくれてよかった。小樽で話しかけてくれた人も欲しいと言っていたので、小樽駅でもPR活動したかった。北海道の人が和歌山に遊びに来てほしいと思いました。



札幌駅構内で南高梅をPRする上田君

北海道で南高梅PR

上南部中学生が修学旅行

みなべ町上南部中学校(村上昌雄校長)は24日から3泊4日の日程で修学旅行を実施した。行き先は北海道で3年生64人が参加、小樽運河レンガ倉庫通りや大倉山ジャンプ競技場、アイヌ博物館など見学したほか、J.R札幌駅で特産の梅干しの配布を行い、南高梅のPRに一役買った。

梅干し配布は今年で4回目。配布は25日の25日に札幌駅改札口付近で行い、「南高梅誕生の地 和歌山県みなべ町」と書いたのぼりを5本掲げた。

呼び込み役の大久保翔平君と上田昌基君がメガホンを片手に「みなべ町から来ました。私たちの町は梅生産量日本一を誇る町です。南高梅の美の厚さ、味を食べて品質のよさを感じて下さい。きょうの夕食に和歌山の南高梅でお茶漬けはいかがでしょうか」などと大きな声で乗降客に呼びかけた。

20分ほどで用意した130パックがなくなり、南高梅の人気の高さがうかがえる結果となった。

呼び込み役を務めた大久保君は「少し恥ずかしかったけど修学旅行で一番の思い出になった。上田君は「少し寝不足で声が出にくくしんどかったが、いい経験になった。やってよかった」と話している。

で続しぎ前改527前へ ◎ 札幌駅構内を 見が

参 考 資 料

近畿地区中学校修学旅行研究大会のあゆみ

近畿地区中学校修学旅行研究大会のあゆみ

(回数の○印は全国研究大会を兼ねる)

	年月/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
①	昭和 59. 7. 6 大阪市教育 青年センター	主題 「今後の修学旅行・自然教室・野外 活動を考える」 発表・山城 真 (兵庫県西宮市立 塩瀬中学校教諭) 「日常の教育活動を生かした本校の 校外学習」 講演 高橋哲夫 (文部省初等中等教育局教科調査官) 「学校教育の今日的課題と修学旅行 ・自然教室」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省、滋賀県・京都府・ 大阪府・奈良県・ 和歌山県各教育委員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
②	昭和 61. 11. 14 兵 庫 県 私 学 会 館	主題 「集団宿泊指導の積み重ねによる 修学旅行」 発表・坂東鐵二 (兵庫県西宮市立 甲陵中学校教諭) 「1年生からの校外学習の積み重ねに よる修学旅行」 ・雨宮 章 (京都府長岡京市立 長岡第四中学校教諭) 「生徒の自主的・実践的態度を育てる 修学旅行・野外活動」 講演 高橋哲夫 (文部省初等中等教育局教科調査官) 「特別活動の充実と今後の修学旅行 のあり方」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省・滋賀県・京都府・大阪府・ 兵庫県・奈良県・和歌山県各教育委 員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
3	平成 1. 1. 20 京 都 市 アバンティアー ・ホール	主題 「生徒の自主性を生かす修学旅行」 発表・松宮 功 (京都府長岡京市立 長岡第三中学校教諭) 「生徒が自主的・意欲的にとりくむ 修学旅行」 ー自分たちで考え、守る ルール アンド マナーー ・栗原重和 (滋賀県高月町立 高月中学校教諭) 「生徒の自発性を促す修学旅行」 ー学級活動、班を取り入れてー 講演 北條直樹 (全修協大阪事務局修学旅行部長) 「修学旅行の基本問題と今日的課題」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 京都府教育委員会 京都市教育委員会 大阪府教育委員会 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 和歌山県教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
④	平成 1. 12. 1 大 阪 府 教 育 会 館	主題 「特色のある修学旅行生徒の自主性 を生かして」 発表・荻野南子 (兵庫県西宮市立 深津中学校教諭) 「生徒たちの創意工夫を生かした修 学旅行」 ーリーダーの育成と班別由行動ー ・林 一幸 (大阪府富田林市立 第三中学校教諭) 「集団作りの中の修学旅行。自主性 の創造をめざして」 講演 高橋哲夫 (文部省初等中等教育局教科調査官) 「個性を生かす教育と修学旅行」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省、大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 京都府教育委員会 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 和歌山県教育委員会 大阪府教育委員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
5	平成 2. 12. 3 奈良県 春日野荘	主題 「生徒の自ら学ぶ意欲を高め、創意を生かす修学旅行」 発表・東 康彦（和歌山県和歌山市立伏虎中学校教諭） 「創意ある班別自主活動を取り入れた旅行」 ー 都内散策活動を通してー ・南 昌克（奈良県大和高田市立高田中学校教諭） 「自ら学び行動する生徒の育成をめざす修学旅行」 ー 生徒の主体的活動を通してー	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
6	平成 3. 11. 12 滋賀県 鳩の浜荘	主題 「これからの修学旅行の自主活動と教師の関わり」 発表・地村 卓（滋賀県大津市立日吉中学校教諭） 「3年間を通した主体性を考える修学旅行」 ・大木義文（京都府長岡京市立長岡第三中学校教諭） 「修学旅行を成功させるための学年代議員を中心とした取り組み」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 大津市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
⑦	平成 4. 11. 27 神戸市総合 教育センター	主題 「視野を広げ、心豊かな人間性を育成する修学旅行」 発表・脇坂健一郎（大阪府美原町立美原西中学校教諭） 「よく食べ、よく学び、よく遊ぼう」 ・平位 隆明（兵庫県姫路市立東光中学校教諭） 「心の豊かさを求める修学旅行」 講演 鹿嶋研之助 （文部省初等中等教育局教科調査官） 「特別活動における修学旅行の意義」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省、兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会 京都府教育委員会 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 和歌山県教育委員会 神戸市教育委員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
8	平成 5. 11. 19 和歌山県 紀の国会館	主題 「視野を広げ、自ら学ぶ意欲を高め、心豊かな人間性を育成する修学旅行」 発表・藤田辰男（奈良県三郷町立三郷中学校教諭） 「自ら学び・主体的に創造する修学旅行」 ー 一日班別自主活動を通してー ・天野 久（和歌山県かつらぎ町立妙寺中学校教諭） 「班別活動を生かした仲間づくり」 ー 自主自立をめざしてー	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 和歌山県教育委員会 奈良県教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
9	平成 7. 1. 20 京 都 府 長 岡 京 市 中 央 公 民 館	主題「視野を広げ、自ら学ぶ意欲を高め、 心豊かな人間性を育成する修学旅行」 発表・草野圭夫（滋賀県大津市立 南郷中学校教諭） 「生徒一人ひとりが体験活動を通して、 喜びと感動を実感できる修学旅行を めざして」 ・小畠恒夫（京都府亀岡市立 南桑中学校教諭） 「最上級生としての自覚を促す修学 旅行の取り組み」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 長岡京市教育委員会 向日市教育委員会 大山崎町教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
⑩	平成 7. 11. 28 大 阪 府 教 育 会 館	主題「体験を重視し、自ら学ぶ意欲を 高め、心に残る修学旅行を求めて」 発表・中山 宏、伝刀永一 （大阪府河内長野市立 長野中学校教諭） 「生徒の主体性を重んじた修学旅行の 創造」 ・江口直宏（兵庫県川西市立 東谷中学校教諭） 「修学旅行を通して自治・学習・友情 を高める」 講演 鹿嶋研之助（文部省初等中等教育局 教科調査官） 「修学旅行における体験学習」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省、都道府県教育長協議会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
11	平成 8. 11. 22 奈 良 県 春 日 野 荘	主題「体験を重視し、自ら学ぶ意欲を 高め、心に残る修学旅行を求めて」 発表・岩崎 篤（和歌山県美山村立 愛徳中学校長） 「学ぶ喜びを求めて」 ・佐藤政幸（奈良県大和高田市立 片塩中学校教諭） 「大規模校における修学旅行実施に 伴う班別活動の導入について」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
12	平成 9. 12. 5 滋 賀 県 大津市生涯 学習センター	主題「体験を重視し、生きる力を育成 する修学旅行」 発表・吉川祥子 （京都府長岡京市立 長岡第三中学校教諭） 「個に応じた体験学習を取り入れ た修学旅行」 ・浦谷政行（滋賀県大津市立 栗津中学校教諭） 「ぐるっと200-自ら計画する修学 旅行を求めて」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 大津市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
⑬	平成 10. 11. 20 兵 庫 県 西 宮 市 フレンテホール	主題「体験を重視し、生きる力を育成する修学旅行」 発表・寺田孝志（大阪府堺市立 浜寺南中学校教諭） 「生徒の自主性を生かす修学旅行」 －実行委員会活動を中心に－ ・鶴山実紀子（兵庫県西宮市立 山口中学校教諭） 「ウォークラリーから始めた修学旅行 班別行動の試み」 講演 成田国英 東京家政学院大学教授 （元文部省教科調査官） 「教育課程の改訂と修学旅行」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省 都道府県教育長協議会 兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会 和歌山県教育委員会 奈良県教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 西宮市教育委員会 全国中学校長会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
14	平成 11. 11. 22 和 歌 山 県 アバローム 紀 の 国	主題「体験を重視し、生きる力を育成する修学旅行」 発表・山本 剛（奈良県五條市立 五條中学校教諭） 「生徒の自主性を育む修学旅行の在 り方」 －奈良県における修学旅行と課題－ ・松本茂和（和歌山県田辺市立 上秋津中学校教諭） 「生徒の主体性を生かす修学旅行」 －実行委員会活動を中心に－	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 和歌山県教育委員会 奈良県教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
15	平成 12. 12. 14 京 都 府 長岡京市立 中央公民館 市民ホール	主題「体験を重視し、生きる力を育成する修学旅行」 発表・清水貴博（滋賀県彦根市立 彦根中学校教諭） 「生きる力につなぐ修学旅行の取り 組み」 ・岩佐好正（京都府伊根町立 本庄中学校教諭） 「地元でできない体験から学ぶ修学 旅行を目指して」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 長岡京市教育委員会 日向市教育委員会 大山崎町教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
⑯	平成 13. 11. 22 大 阪 府 たかつ ガーデン	主題「体験的学習を通して生きる力を育成する修学旅行」 発表・中村勝成 田中 繁 （大阪府松原市立 松原第二中学校教諭） 「総合的な学習にリンクさせた修学 旅行」 ・岡田みどり（兵庫県伊丹市立 東中学校教諭） 「自立をめざす三年間をみすえた 学校行事づくり」 講演 森嶋昭伸（文部科学省初等中等教育 局教育課程課教科調査官） 「学校教育の転換と修学旅行」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部科学省 全日本中学校長会 都道府県教育長協議会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 京都府教育委員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
17	平成 14. 11. 15 奈良県 春日野荘	主題「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」 発表・中村恭輔・中嶋昭夫 (奈良県奈良市立 春日中学校教諭) 「学び、育てよう” 沖縄のこころ” ー 総合的な学習を通してー ・二本松芳彦 (和歌山県日高郡 南部川村立清川中学校教諭) 「(平和・交流・自然) 体験旅行」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山県教育委員会 奈良市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
18	平成 15. 11. 14 滋賀県 大津市 生涯学習 センター	主題「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」 発表・小島照代 (京都府福知山市立 南陵中学校教諭) 「九州への修学旅行」 ー姉妹都市、島原との交流を通してー ・橘 香洋 (滋賀県守山市立守山北中学校 教諭) 「世界自然遺産の島・屋久島への旅」 ー生徒が育つ修学旅行ー	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 奈良県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山県教育委員会 大津市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
19	平成 16. 11. 18 兵庫県 西宮市 プレラ にしのみや	主題「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」 発表・安田昭彦 (大阪府美原町立美原中学校教諭) 「沖縄への修学旅行」 ー平和学習を基盤とした 修学旅行の取り組みー ・志水和司 (兵庫県安富町立安富中学校教諭) 「北海道への修学旅行」 ー総合的な学習(福祉)を深めるー	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 西宮市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会